

熱意と好奇心を持って先端技術にチャレンジ

Taking the Challenge in Cutting-Edge Technology, with Enthusiasm & Wonderment

取締役

赤塚 隆夫

Takao Akatsuka



近年のデジタル化の進展はめざましいものがある。高画質で双方向通信機能などの特徴を持つデジタル放送，プラズマテレビなどの大型の薄型テレビ，デジカメなどがその代表例である。これら革新的な製品には多くの先端技術が使われており，我々はその恩恵に与っている。国内外の大学や研究所ではナノテク，バイオ，ソフトウェアなど先端研究が盛んである。そこで得られたアイデアや先端技術を人々の暮らしを豊かにする製品として実現する役割を担っている我々の責任は大きいと言える。

一人の天才の生み出した理論が世界観を一変してしまうことがある。1905年はアインシュタインが光電効果の理論，特殊相対性理論など多くの革命的な論文を発表した年であり，今振り返って見ると物理学にとって「奇跡の年」と言える。来年（2005年）は，その年から100年経過したことを記念して国連が「世界物理年」と定め講演会，物理コンテストなどのイベントが各国で計画されている。この際，人々の世界観を大きく変えたアインシュタインの業績を振り返り，原点を見つめ直す良い機会でもある。アインシュタインの理論をもとに多くの革新的な発明が生み出され，我々は日々それらを利用している。

身近な例では，近年の当社の業績躍進の一翼を担っているカーナビゲーションシステムに使われているGPS(全地球測位システム)は相対性理論による時間のずれを考慮し設計されているとの事である。また，普及が著しいデジタルカメラなどに使われている光センサの光電効果は光の粒子としての振る舞いに着目し説明された。この他に，なにげなく使っている製品の中にも彼の研究成果が生きている物が多い。

我々のビジネス分野である自動車も発明されてから100年以上経過したが、世界中の人々に多くのメリットをもたらした反面、解決すべき課題も抱えているのも現実である。将来に渡り「持続可能なモビリティの実現」をめざし各方面で努力が続けられている。

本年10月に名古屋で開催された第11回ITS世界会議では世界各国からの専門家が集まり多くの「安全、環境、利便」など多くの議論がなされた。ITS（高度道路交通システム）は高度情報通信技術を用いた、人と道路と車両を一体化したシステムである。画像処理を始め各種の先端技術の出現が望まれている。富士通テンでは、昨年ミリ波レーダーの量産を開始したが、長年の基礎研究と製品化に向けた地道な技術開発の成果である。

アインシュタインは「私には特別の才能はない。熱狂的な好奇心があるだけ」と述べている。来年は「世界物理年」と21世紀最初の万博である「愛・地球博」の開催年であるので、好奇心を刺激するには大変恵まれた年である。熱意と「好奇心」を持って先端技術開発にチャレンジすることで、世界トップの商品、オンリーワン商品をお客様の多様なニーズを先取りし提案できるものと信じている。